Ⅳ 施設の点検・機能診断と年度活動計画の策定

1．点検（農地維持活動）

農用地や水路など、地域資源の基礎的な保全活動に向けて、毎年度、農用地や施設の状況確認を実施します。この点検結果に基づいて、年度活動計画を策定します。

点検のポイント

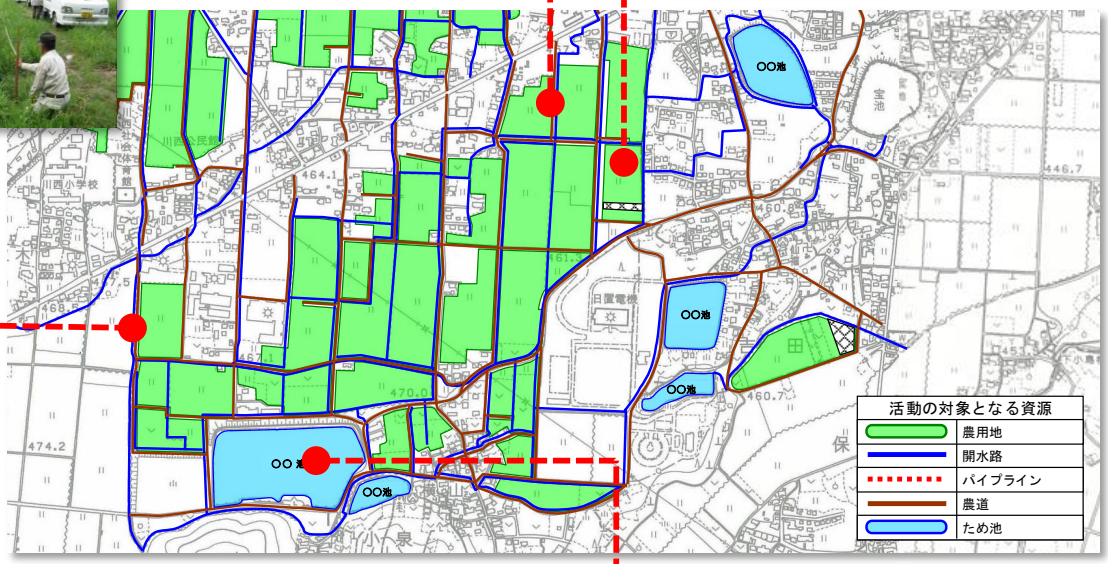
農用地・施設の点検は、毎年度、非かんがい期に行います。活動計画書に位置付けた農用地、施設のすべてについて、以下のポイントに沿って、施設などに問題がないか点検します。

農　道

- ☑ 路面の凹凸により交通に支障はないか？
- ☑ 側溝に泥が堆積していないか？
- ☑ ゴミが投棄されていないか？
- ☑ 路肩・法面に雑草が繁茂していないか？

農用地

- ☑ 遊休農地が発生していないか？



水　路

＜開水路＞

- ☑ 土砂の堆積や漏水により通水に支障はないか？
- ☑ ゲートやポンプなどの水利施設は正常に作用するか？

＜パイプライン・ポンプ吸水槽＞

- ☑ ポンプ吸水槽への泥やゴミの堆積はないか？
- ☑ 制水弁や給水栓などに異状はないか？
- ☑ 通水に問題はないか？

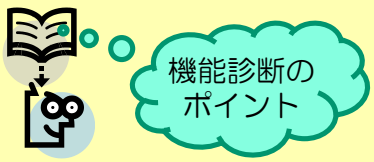
ため池

- ☑ ため池内に土砂が堆積していないか？
- ☑ 堤体に雑草が茂っていないか？
- ☑ ゴミが投棄されていないか？
- ☑ 取水施設のコンクリート構造物の基礎部分に空洞はないか？
- ☑ 斜樋や取水ゲートなどに破損がないか？

２．機能診断（資源向上活動）

（１）農用地

農用地で安心して営農するためには、畦畔や法面が保全されるとともに、鳥獣や風の被害を防ぐことが欠かせません。これらの状況をつかみ、適正に管理、補修などを行います。

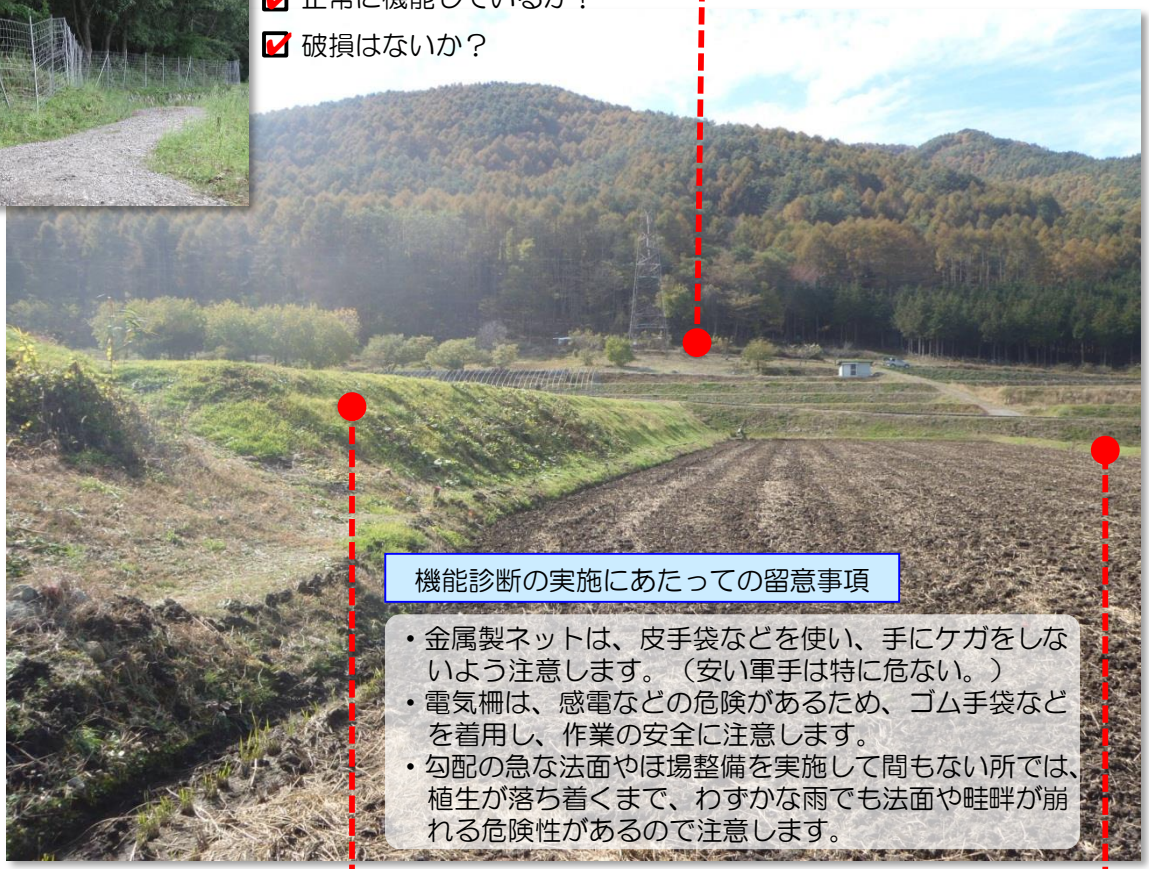


活動計画書に位置付けた農用地の畦畔や法面、鳥獣害防護柵、防風ネットなどの破損や劣化状況を、以下の項目に沿って診断し、結果について記録管理します。

また、施設の破損状況や老朽化の進行度合いを経年的に把握して、必要な管理・補修計画を立て、予防保全活動を適期に進めていくことが大切です。

鳥獣害防護柵

- ☑ 正常に機能しているか？
- ☑ 破損はないか？



機能診断の実施にあたっての留意事項

- 金属製ネットは、皮手袋などを使い、手にケガをしないよう注意します。（安い軍手は特に危ない。）
- 電気柵は、感電などの危険があるため、ゴム手袋などを着用し、作業の安全に注意します。
- 勾配の急な法面やほ場整備を実施して間もない所では、植生が落ち着くまで、わずかな雨でも法面や畦畔が崩れる危険性があるので注意します。

法　面

- ☑ 浸食や水みちはないか？

畦　畔

- ☑ 崩れたり、低くなったりしていないか？
- ☑ 漏水していないか？

機能診断結果記録表の記入方法（農用地）

機能診断結果記録表を現場に持参して、診断結果を記入します。診断結果は、施設の長寿命化計画の作成に役立てます。また、実践活動で、問題箇所ごとにどのような対応（補修・更新など）を実施したか、修復履歴として記入します。

機能診断結果に基づいて、施設の保全活動がきちんと行われたか、市町村が確認する際の補助資料にもなりますので、しっかり記録して保管してください。

県独自様式

機 能 診 断 結 果 記 録 表

組織名	○○○○保全会

施設区分	農用地	整備年度	昭和６１年度（鳥獣害防護柵はＨ２）
施 設 名	ー	区 間 等	○○集落内

機 能 診 断				修 復 履 歴	
実施日	診断場所	診断結果	診断担当者	実施日	作業内容
H25.11.08		異常なし	○○○○		
H26.11.17	字○○内①	法面の一部に小規模な浸食あり［計３箇所、幅20cm程度の大きさ］	○○○○	H26.11.26	浸食部分に土を補充し整形
	字○○内②	鳥獣害防護柵の断線が一部あり［２箇所］	○○○○	H27.03.22	断線箇所の修復

異状がない場合も記入します。

診断日を記入します。

補修した日を記入します。

問題があった箇所をこの欄に記入して、通し番号（①、②、③・・など）をふり、その番号を問題箇所の位置図に記入します。

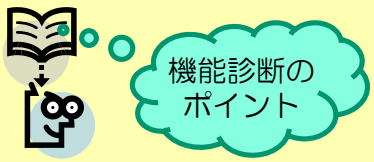
それぞれの問題箇所について、実践活動でどのような対応（補修、更新など）を実施したか記入します。

● 問題箇所が見つかった場合

異状を発見した場合は、図面に位置を記入し、写真などを添付してください。

（２）水路

用水路や排水路のネットワークは、農業を支える最大の施設です。その通水がスムーズに行われるように、普段から点検を欠かさず、問題箇所は早期に対応します。



活動計画書に位置付けた水路の破損や劣化状況について、以下の項目に沿って診断します。

また、ゲートなどの附帯施設の破損状況も、事故防止のため忘れずにチェックします。診断時期は、非かんがい期で、水路に水が少ないときに行うと効果的です。

コンクリート水路

- ☑ 目地の劣化やゆるみはないか？
- ☑ 表面は劣化してないか？

- ☑ 不同沈下はないか？

土水路

- ☑ 浸食や崩壊はないか？

側　壁

- ☑ 側壁の破損やはらみはないか？

- ☑ 側壁背面に空洞化はないか？

附帯施設

- ☑ ゲートなどの附帯施設に破損はないか？
- ☑ ゲートの開閉はスムーズか？

- ☑ 転落防止柵、手すりの破損はないか？

機能診断結果記録表の記入方法（水路）

機能診断結果記録表を現場に持参して、診断結果を記入します。診断結果は、施設の長寿命化計画の作成に役立てます。また、実践活動で、問題箇所ごとにどのような対応（補修・更新など）を実施したか、修復履歴として記入します。

機能診断結果に基づいて、施設の保全活動がきちんと行われたか、市町村が確認する際の補助資料にもなりますので、しっかり記録して保管してください。

県独自様式

機 能 診 断 結 果 記 録 表

路線ごとになっていますが、施設区分単位で記入しても構いません。

組織名	○○○○保全会

施設区分	水路	整備年度	昭和５８年度
施 設 名	○○○○水路	区 間 等	―

機 能 診 断				修 復 履 歴	
実施日	診断場所	診断結果	診断担当者	実施日	作業内容
H25.11.08	○○分水から、△△分水ゲートまで ①	目地部分が一部開いている［○○分水～△△分水ゲートの範囲］	○○○○	H26.03.20 H26.03.22	モルタルを充填材とした目地詰めを実施
H26.11.17	○○分水から、下流に約○○m ②	一部分にはらみあり［○○分水の下流約30mの場所、２m程度の範囲］	○○○○	H26.11.26	側壁背面の過剰な土を取り除き、側壁を適正位置に再設置
	○○分水から、△△分水ゲートまで ③	目地部分が一部開いている［○○分水～△△分水ゲートの範囲］	○○○○	H27.03.22	モルタルを充填材とした目地詰めを実施

診断日を記入します。

補修した日を記入します。

位置がわかるように記入します。

問題があった箇所をこの欄に記入して、通し番号（①、②、③・・など）をふり、その番号を問題箇所の位置図に記入します。

それぞれの問題箇所について、実践活動でどのような対応（補修、更新など）を実施したか記入します。

● 問題箇所が見つかった場合

異状を発見した場合は、図面に位置を記入し、写真などを添付してください。

（３）農道

農道は、日頃の農作業などで頻繁に利用するため、道路や周辺施設は、経年劣化が避けられません。早めの点検により、的確に状況を確認します。

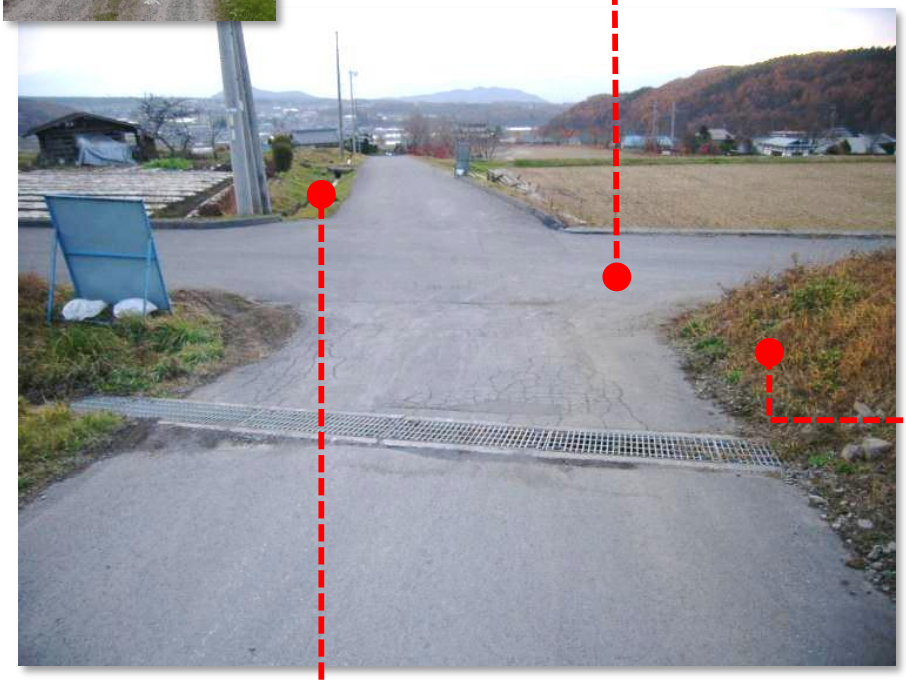
機能診断のポイント

活動計画書に位置付けた農道の路面、路肩や法面、側溝まで含めた施設の破損や劣化状況について、以下の項目に沿って診断します。

診断時期は、路肩や法面に雑草が繁茂しない冬季や春先（融雪直後）に行うと効果的です。

未舗装道路

- ☑ 路面のくぼみ、水溜りはないか？
- ☑ ぬかるみはないか？



路　面

- ☑ 路面のくぼみ・穴はないか？

- ☑ 路面に大きなひびはないか？

路肩・法面

- ☑ 路肩や法面の崩れや亀裂・浸食はないか？

側　溝

- ☑ 不同沈下していないか？
- ☑ 側壁背面に空洞はないか？

- ☑ 目地の劣化や破損はないか？

- ☑ 表面に劣化やひび割れはないか？

- ☑ 蓋の破損や倒れ込みはないか？

機能診断結果記録表の記入方法（農道）

機能診断結果記録表を現場に持参して、診断結果を記入します。診断結果は、施設の長寿命化計画の作成に役立てます。また、実践活動で、問題箇所ごとにどのような対応（補修・更新など）を実施したか、修復履歴として記入します。

機能診断結果に基づいて、施設の保全活動がきちんと行われたか、市町村が確認する際の補助資料にもなりますので、しっかり記録して保管してください。

県独自様式

機 能 診 断 結 果 記 録 表

路線ごとになっていますが、施設区分単位で記入しても構いません。

組織名	○○○○保全会

施設区分	農道	整備年度	昭和６２年度
施 設 名	農道○○－○○線	区 間 等	○○集落内

機 能 診 断				修 復 履 歴	
実施日	診断場所	診断結果	診断担当者	実施日	作業内容
H25.11.08	字○○内の路面 ①	路面の一部にひび割れあり［30cm程度の大きさ、幅1cm程度］	○○○○	H26.06.10	モルタルを充填材とした目地詰めを実施
H26.11.17	字○○内の路肩・法面 ②	路肩、法面に水みちあり［幅10cm程度の大きさ］	○○○○	H26.11.26	側壁背面の過剰な土を取り除き、側壁を適正位置に再設置
	字○○内の側溝 ③	側溝の側壁に一部損壊あり［幅20cm程度の大きさ］	○○○○	H27.03.18	モルタルを充填材とした目地詰めを実施

診断日を記入します。

補修した日を記入します。

損傷の規模を記入します。

問題があった箇所をこの欄に記入して、通し番号（①、②、③・・など）をふり、その番号を問題箇所の位置図に記入します。

それぞれの問題箇所について、実践活動でどのような対応（補修、更新など）を実施したか記入します。

● 問題箇所が見つかった場合

異状を発見した場合は、図面に位置を記入し、写真などを添付してください。

（４）ため池

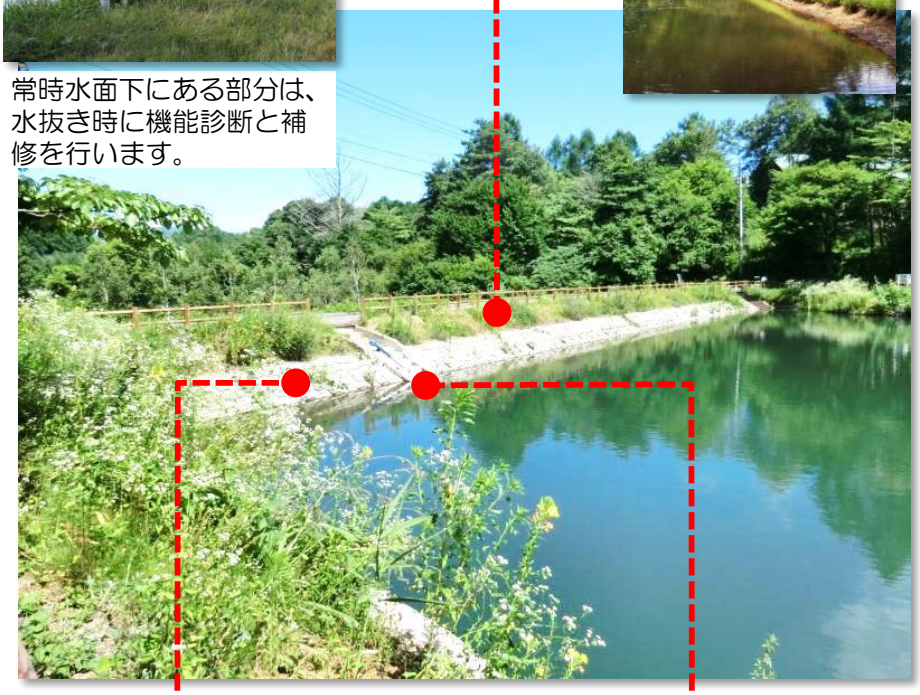
ため池は、地域の田畑に必要な用水を確保・供給する上で重要な役割を果たしています。この機能を維持するために、機能診断をしっかり行います。

機能診断のポイント

通常の機能診断は、ため池の管理・運用スケジュールに合わせて、水位が低下する時期などに実施します。

診断は、目視で行うほか、コンクリート構造物はハンマーで叩き、周囲と異なった音がしないか確認します。ため池の施設ごとに、以下のポイントにしたがって診断してください。

常時水面下にある部分は、水抜き時に機能診断と補修を行います。



堤体法面（護岸が張られていない堤体）

- ☑ 表面に浸食や崩れはないか？
- ☑ 表面の陥没や漏水はないか？
- ☑ 遮水シートの破損や劣化はないか？

コンクリート構造物

- ☑ コンクリートの破損やズレはないか？
- ☑ 目地（継ぎ目）の破損や劣化はないか？

- ☑ 構造物の裏側に空洞が生じていないか？
- ☑ 下流法面の崩れや亀裂・浸食はないか？

附帯施設

- ☑ ゲートの作動に異状はないか？
- ☑ ゲートに錆や腐食はないか？

- ☑ 転落防止柵などに破損や腐食はないか？
- ☑ 看板類の破損や設置の不備はないか？
- ☑ 管理道路の路肩や法面の損傷はないか？

機能診断結果記録表の記入方法（ため池）

機能診断結果記録表を現場に持参して、診断結果を記入します。診断結果は、施設の長寿命化計画の作成に役立てます。また、実践活動で、問題箇所ごとにどのような対応（補修・更新など）を実施したか、修復履歴として記入します。

機能診断結果に基づいて、施設の保全活動がきちんと行われたか、市町村が確認する際の補助資料にもなりますので、しっかり記録して保管してください。

県独自様式

機 能 診 断 結 果 記 録 表

ため池ごとになっていますが、施設区分単位で記入しても構いません。

組織名	○○○○保全会

施設区分	ため池	整備年度	昭和５０年度
施 設 名	○○池	区 間 等	―

機 能 診 断				修 復 履 歴	
実施日	診断場所	診断結果	診断担当者	実施日	作業内容
H25.11.10	洪水吐 ①	洪水吐表面の一部にひび割れあり［20cm程度の長さ］	○○○○	H26.02.20	モルタルを充填材とした目地詰めを実施
H26.11.19	洪水吐から20m下流 ②	堤体法尻にわずかな漏水あり［周辺２mほどが湿っている］	○○○○	H27.11.20	町役場○○課○○技師に連絡［後日、専門家の調査診断を実施］

診断日を記入します。

補修した日を記入します。

損傷の規模を記入します。

問題があった箇所をこの欄に記入して、通し番号（①、②、③・・など）をふり、その番号を問題箇所の位置図に記入します。

それぞれの問題箇所について、実践活動でどのような対応（補修、更新など）を実施したか記入します。

規模が大きく、施設の所有者に連絡した場合、連絡した日を記入します。

● 問題箇所が見つかった場合

異状を発見した場合は、図面に位置を記入し、写真などを添付してください。

３．問題箇所の位置図の作成

各施設の機能診断を実施して、機能診断結果記録表に問題箇所とその状況を記入した場合は、それぞれの問題箇所の位置図を作成します。

作成のポイント

機能診断の結果を「機能診断結果記録表」に記入する際に、問題のある箇所について通し番号（①、②、③…など）をふり、「問題箇所の位置図」にその施設名と番号を記入します。

位置図は、手書きで作成してもよいですが、負担軽減のために、認定対象区域図面や市販の地図（住宅地図など）のコピーを使用すると簡単に作成できます。

機 能 診 断 結 果 記 録 表

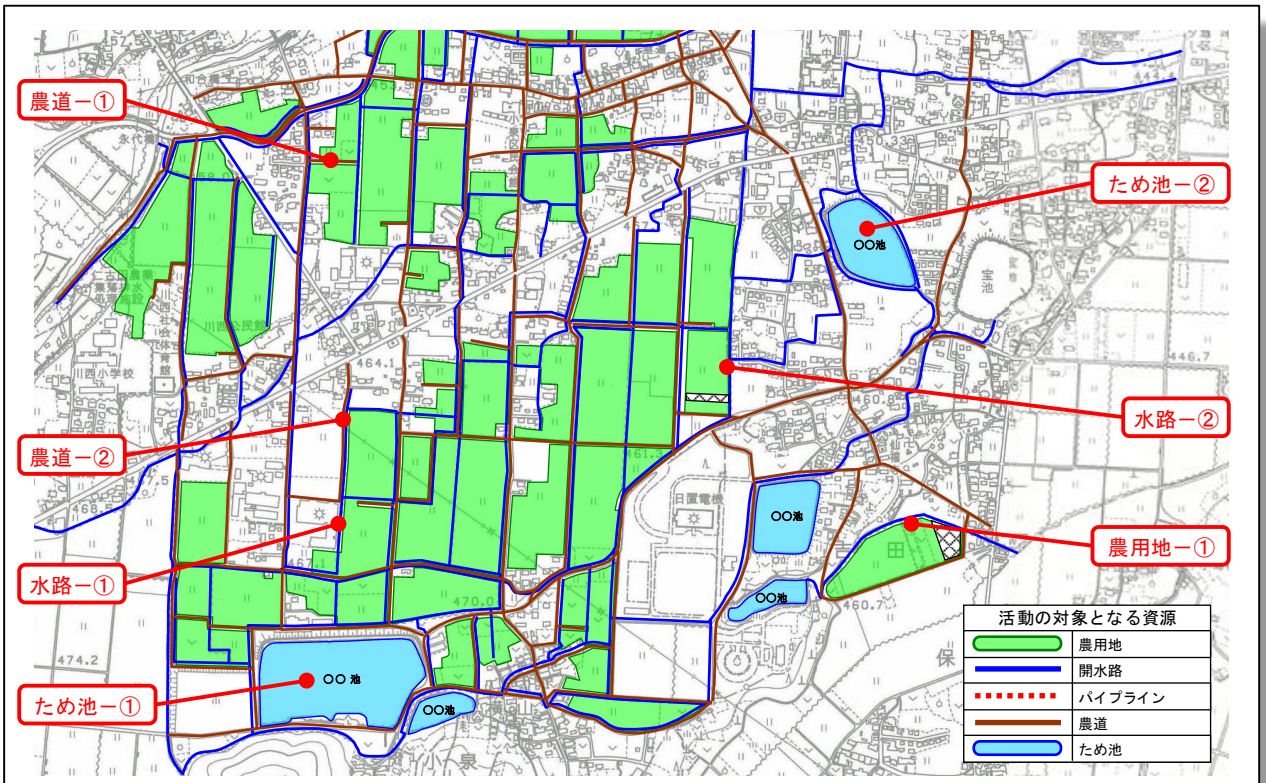
組織名	○○○○保全会

施設区分	水路	整備年度	昭和５８年度
施 設 名	○○○○水路	区 間 等	―

機 能 診 断				修 復 履 歴	
実施日	診断場所	診断結果	診断担当者	実施日	作業内容
H25.11.08	○○分水から、△△分水ゲートまで ①	目地部分が一部開いている［○○分水～△△分水ゲートの範囲］	○○○○	H26.03.20 H26.03.22	モルタルを充填材とした目地詰めを実施
H26.11.17	○○分水から、下流に約○m ②	一部分にはらみあり［○○分水の下流約30mの場所、２m程度の範囲］	○○○○	H26.11.26	側壁背面の過剰な土を取り除き、側壁を適正位置に再設置

問題があった箇所に通し番号をふり、位置図に記入します。

問題箇所の位置図の記入例



４．年度活動計画の策定

農用地や水路、農道、ため池などの施設について、それらの維持や効率的な予防保全活動を行うため、点検や機能診断の結果に基づいて、年度活動計画を策定し、活動を進めます。

年度活動計画の様式は自由ですが、点検や機能診断の結果に基づいて、いつ、どこで、だれが、どのように実践活動を行うのかが一目で見られるように、具体的な年間スケジュール表の形式で作成します。

（１）計画策定の手順

１）施設ごとに、草刈り、泥上げ、補修など、対応が必要とされる問題箇所に優先順位をつけ、本年度中に対応すべき箇所を明確にします。

２）カレンダーを見ながら、各箇所の作業量や参加人員などを勘案し、それぞれの作業や催しを適切な月に割り振り、おおよその活動日（時期）を確定します。

３）年度活動計画の様式にまとめます。

年度活動計画の記入例

県独自様式

年　度　活　動　計　画

平成27年度　　組織名　○○○○保全会

実施時期	区分	実施内容※	実施場所※	参加者（役割分担）
４月中旬	水路 農道 ため池	草刈り	地域全体 ○○池	○○自治会 ○○水利組合
４月下旬	水路	水路の目地詰め 水路法面の補修	○○水路	○○水利組合
５月中旬	農道	破損施設の補修 側溝の目地詰め	○○線 ○○地点	○○自治会
６月中旬 ～７月	農用地	畦畔・農用地法面の草刈り	地域全体	農業者が個々に実施
７月上旬	農村環境	景観形成のための花の植栽	○○農道	自治会 ○○小ＰＴＡ ○○の会
・・・				

農村環境保全活動の計画は、Ｐ２－２０を参照します。

※「実施内容」は、要綱基本方針の取組や具体的な内容を記入します。
「実施場所」は、点検などの結果により、活動の場所を特定する場合に記入します。

農地・水路法面の草刈り

自主施工での水路補修

ため池の外来種駆除

（２）留意事項

■　年度活動計画の策定に当たっては、活動組織の構成員が、活動に参加しやすい曜日や作業分担となるよう留意します。計画を周知するため、年度活動計画を公民館や集会場に掲示し、回覧板や広報誌※などを活用して参加を呼びかけます。

※ 活動時の写真などを掲載して、年１～２回発行すると、構成員の理解につながります。

■　作業当日に向けて、緊急対応のため、事前に土地改良区や市町村、医療機関との連絡体制を整理しておくと安心です。また、危険箇所の把握や傷害保険の加入など、不測時の対応について検討しておくことも重要です。

年度活動計画の記入例（農地維持と資源向上の両方に取り組む場合）

年度活動計画

県独自様式

平成 27 年度

組織名 ○○○○保全会

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	主な分担
農用地	畦畔の再築立	鳥獣害防護柵の管理	農用地法面の初期補修	遊休農地の確認	草刈り						機能診断		農業者 農業委員会 農業者（個々に実施） ○○○○保全会 農業者
水路	泥上げ	草刈り	配水操作・ゲートの保守管理	草刈り		草刈り	安全施設の保守管理	機能診断	水路側壁のはらみ修正	目地詰め	点検		○○水利組合 ○○○○保全会 ○○自治会 ○○水利組合 ○○水利組合
農道	側溝泥上げ	草刈り	砂利補充・路肩の補修			草刈り		機能診断		側溝目地詰め	点検		○○自治会 ○○○○保全会 ○○自治会 ○○自治会
ため池		草刈り	配水操作	草刈り		草刈り	安全施設の保守管理	機能診断	ゲートの保守管理（屋内保管・塗装）		泥上げ 点検	波除護岸の補修	○○水利組合 ○○○○保全会 ○○水利組合 ○○土地改良区 ○○水利組合 ○○土地改良区 ○○水利組合
全体				事務研修	異常気象後の見回り・応急措置（異常気象発生時に適宜）		管理道路の管理	技術研修	担い手農家との検討会				○○水利組合 ○○○○保全会 ○○○○保全会 ○○○○保全会 農業者

活動の中心となる団体や所属を移入します。

活動を実施する時期を矢印で示し、具体的な活動内容を記入します。

農村環境保全活動は、追加して記入するか、別紙で作成してください。

５．研修の開催

活動の実施に必要な事務（書類作成、申請手続きなど）に関する研修や、組織の運営に関する研修を受けることにより、活動の円滑な実施や効率化に役立てます。

また、施設の機能診断や簡単な補修、環境保全活動などを、構成員自身の力で実施できるように、技術研修などを実施し、技術力の向上を目指します。

研修は、協議会や県が主催するものもあるので、積極的に参加してください。

（１）研修内容の決定

１）一つ一つの活動について、具体的な作業手順や参加者を把握し、作業を行う上での技術的・技能的な課題がないか検討します。

２）自分たちで行う活動の中で、技術的・技能的な課題がある活動（例えば、誰にでもできるものではなく、事前に実習が必要なもの、ある程度の作業内容に関する知識や技能が必要なもの）をピックアップします。

３）それぞれの課題ごとに、研修すべきテーマを決め、作業手順や参加者などを考慮して、具体的な内容を整理します。

４）専門的な研修については、専門業者に講師を依頼することもできます。（謝金は、交付金から支出できます。）

協議会や県が主催する事務研修会に参加

代表者が他の活動組織へ出向き、補修技術を習得
⇒構成員への研修を実施

（２）留意事項

■ 参加者が集まりやすい日時を選択

研修の日時を決める際は、参加者の都合などを踏まえながら、研修日を決定します。なお、研修で学んだ内容がすぐ実践に移せるように、研修日と作業日は、なるべく近い方がよいです。

■ ＤＶＤなどの映像を積極的に活用

講師は、地元の土地改良区や市町村担当者に相談してみてください。構成員の中に詳しい人がいれば、本人の負担になり過ぎない範囲でお願いしても構いません。

テーマによっては、ＤＶＤなどの映像資料を活用することも検討します。

■ 安全対策を重視

事故やけがなどを未然に防ぐため、作業の安全に関することは、研修の中で十分に説明します。現地研修では、参加者全員が、見学や実技をしやすい安全な場所を選びます。

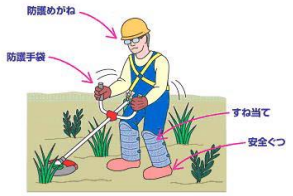
■ 参加者が受け身にならないプログラム

参加者が意欲を持って取り組み、活動を真に実りあるものにするため、研修内容の要点をまとめた資料を配布するとともに、活動の意義を説明します。

また、質疑応答や実技参加などをしっかり組み込み、理解を深めることが重要です。

（３）研修のテーマ（例）

参加したいという動機付けを高めるために、研修テーマをチラシなどで伝える際は、タイトルなども工夫してみてください。参考資料なども活用すると内容がさらに充実します。

研修テーマと開催時期	講師など	参考資料など
安全に草刈りを行うコツ教えます！（５月～７月頃）  	草刈り上手な農家 ＋映像資料	➢ Ｗｅｂサイト「農作業安全ポイント　刈払機」（農作業安全情報センター）★ ➢ 単行本「農家が教える　ラクラク草刈り・草取り術」（農山漁村文化協会） ➢ ＤＶＤ「雑草管理の基本技術と実際」全４巻（農山漁村文化協会）
誰にもできる水路を長持ちさせる補修法！（１月～４月頃） 	土地改良区職員など ＋映像資料	➢ 冊子「水路の簡易補修マニュアル」（農山漁村文化協会） ➢ ＤＶＤ「水路を長持ちさせるには?／水路の簡易補修マニュアル」全２巻（農山漁村文化協会） ➢ 研究報告「コンクリート水路の診断技術および簡易補修工法に関する研究」（農研機構：農村工学研究所）★
鳥獣との戦いを終わりにする柵の設置！（４月～１０月頃） 	行政の鳥獣害対策担当者、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー（農水省登録）など	➢ Ｗｅｂサイト「鳥獣被害対策コーナー」（農林水産省ＨＰ）★ ➢ 冊子「暮らしを守る獣害対策マニュアル」（農山漁村文化協会） ➢ ＤＶＤ「暮らしを守る獣害対策シリーズ」全１巻（農山漁村文化協会）
田んぼの周りは生き物がいっぱい！～生き物調査と生き物の識別の仕方～（５月～９月頃） 	土地改良区職員、学校の先生、田んぼの生きものインストラクターなど	➢ 単行本「生きものを育む　田園自然の再生」（農山漁村文化協会） ➢ 単行本「田んぼの生きもの　おもしろ図鑑」（農山漁村文化協会） ➢ 単行本「田んぼの生きもの識別図鑑」（地域環境資源センター） ➢ 冊子「生きもの調査のすすめ」（農水省・農村環境整備センター）★ ➢ 冊子「田んぼの生きもの調査　下敷き＆ガイド」全３巻（農山漁村文化協会）

✍ 参考資料の★印の冊子類は、インターネットから入手（ダウンロード）可能です。
（タイトルなどで検索してください。）